

毎日フォーラム

政策情報誌

特集 災害と向き合う

霞が関ふるさと記
熊本県

日本の選択 8月号



日本の近代建築
茨城県
常陸太田市
旧県立太田中学校講堂

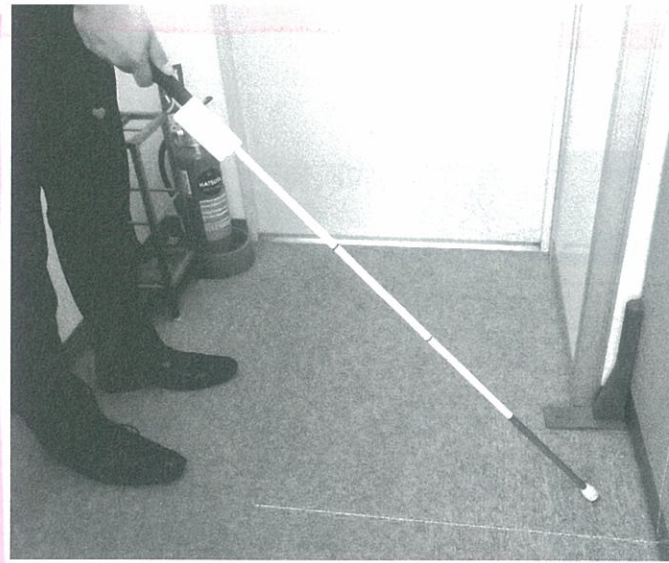
企業ファイル

視覚障害者を補助するレーザー放射器

ウインベスト

東京都中央区の「ウインベスト」は、この秋にも、日本盲導犬協会と共同開発した携帯用レーザーライナー放光器「導ほたる」の写真を販売を予定している。

放光器は充電式で、手のひらに乗るコンパクトサイズで、重さ56gと軽量なのが特長だ。赤色のレーザーライナーを視覚障害者よりも2〜3歩前方に出すことで、歩行者や自転車使用者の視認性が高まり、車の影や角地での出合い頭の衝突事故を回避できるといふ。視覚障害者は白杖と一緒に持ったり、ウエストに付けたりして使う。盲導犬の側方に付けることも有効という。導ほたるは、昨年開かれた国際盲導犬連盟のセミナーや、今年開催された盲導犬育成ジャパンセミナーでも紹介された。



全179駅のホームドアの設置を決定

東京地下鉄

東京地下鉄はこのほど、2025年度までに東西線の全駅にホームドアを設置すると発表した。同社の路線では東西線だけ設置計画が未定だった。これで同社の全179駅へのホームドアの設置が決まった。

東京地下鉄によると、ホームドアはホームから線路内への転落事故や、ホームにおける列車への接触事故を防止するのにも有効で、丸ノ内線や有楽町線、南北線、副都心線は既に全駅に設置が終わっている。残りの東西線や銀座線、日比谷線、千代田線、半蔵門線にも設置を進めている。東京五輪・パラリンピックがある20年夏までに全体の設置率を77%にするという。

ホームドアは15年度時点で、南北線全19駅、千代田線2駅(綾瀬駅、北綾瀬駅)、丸ノ内線全28駅、副都心線全11駅、有楽町線全24駅、銀座線1駅(上野駅)への設置が完了している。さらに、ホームドアの設置に合わせて、曲線ホームでホームと車両の間隔が広い場所には、踏み外しや転落を防止する設備として可動ステップを設置している。可動ステップは15年度時点で23駅258カ所への設置を完了している。

国交省の「空き家・空き地バンク」構築事業に採択

アットホーム

アットホームはこのほど、国土交通省が進めている「全国版空き家・空き地バンクの構築運営に関するモデル事業」の実施事業者に採択されたと発表した。近年空き地、空き家が急増しており、今後も増大すると見込まれる。空き家率は3大都市圏で12・3%、それ以外の地域では14・9%もあり社会問題になっている。

これまでの空き家・空き地対策は、各自治体が独自に空き家などの物件情報を集めてウェブサイトで発信する「空き家・空き地バンク」などが運営されてきた。しかし、地域を横断しての情報収集や、比較検討が難しいのが難点と指摘されていた。そこで国交省は「全国版空き家・空き地バンクの構築運営に関するモデル事業」の実施を決定していた。

アットホームは、不動産情報流通事業の実績とノウハウを持っており、全国5万4000店以上に及ぶ加盟・利用不動産店による不動産情報ネットワークがあることから、このモデル事業に事業者として応募していた。今後は、国交省や各自治体と連携しながら「空き家・空き地バンク」を構築し、全国の空き家・空き地と消費者ニーズのマッチングや物件情報の流通の促進に取り組む。